

P マークと ISMS の 違いと選び方

同じ情報認証でも守る対象が全く違う

JIS 規格・ISO 規格・5 軸で判断基準を徹底解説



どっちも情報を守るやつでしゅか？

守る対象がまるで違う。混同するな



【解説に入る前に】サービスのご紹介



セキュリティプロ・フリーランス

セキュリティに特化したフリーランス案件の
マッチングサービス

- ✓ 最高月収 150 万円・月額 80 万円以上の案件が 80% 以上
- ✓ リモート率 80% 以上、フルリモート案件多数
- ✓ セキュリティに精通した専任エージェントが営業・単価交渉・契約を代行

[詳細を見る →](#)



セキュリティプロ・テンショク

セキュリティエンジニア / コンサルタントに
特化した転職エージェント

- ✓ 最高想定年収 1,200 万円・利用者の 85% 以上が年収アップ
- ✓ 取扱求人の約 7 割が非公開求人
- ✓ 技術がわかるアドバイザーが書類添削・面接対策・年収交渉を代行

[詳細を見る →](#)



どちらも登録・利用は完全無料。在職中・フルリモート希望でも相談できます。
まずは市場価値の無料相談から。

● Pマーク（プライバシーマーク）の基本



守る対象

個人情報・マイナンバーに限定



準拠規格・付与機関

JIS Q 15001 ・ JIPDEC（国内）



Pマークの核心

個人情報保護に特化した国内制度だ

● ISMS（情報セキュリティ MS）の基本



守る対象

顧客情報から技術情報まで全情報資産



準拠規格・国際通用性

ISO/IEC 27001 ・ 世界共通の規格



ISMS の核心

情報資産全般を国際規格で守る仕組みだ

● P マークと ISMS を 5 軸で比較

P マーク

個人情報特化・国内向け

- ・ 個人情報・マイナンバーのみ対象
- ・ JIS Q 15001（国内規格）
- ・ 2年ごとの更新審査
- ・ BtoC・国内取引で評価

VS

ISMS

全情報資産・国際向け

- ・ 顧客情報から技術情報まで全資産
- ・ ISO/IEC 27001（国際規格）
- ・ 毎年維持審査 + 3年ごと更新
- ・ BtoB・海外取引で求められる



5 軸比較の軸

守る範囲と通じる相手が全く違う

● 保護対象の範囲が全ての起点



P マークの守備範囲

個人情報とマイナンバーのみ



ISMS の守備範囲

個人情報を内側に含む全情報資産



対象範囲の核心

守りたい情報の中身が選ぶ認証を決める

● 審査サイクルと費用の比較

P マーク（2 年更新）



更新サイクル

2 年ごとに更新審査のみ



費用の傾向

範囲設計次第で抑えやすい

ISMS（毎年審査）



審査サイクル

毎年維持審査 + 3 年ごと更新



費用相場

審査もコンサルも見積もり制（公表料金なし）

年次負荷は ISMS が重い



● 自社に合う認証を選ぶ3つの基準



個人情報を中心の業態

人材・EC・医療・教育なら P マーク



情報資産全般・海外取引

受託開発・SaaS・海外なら ISMS



両方必要なケース

段階的取得が現実的・スコープは絞る

3基準とも取引先の要請が最終的な決め手になる



● 段階的取得という現実的な戦略



取得の優先順位

取引先要請が強い認証から先にする



スコープを絞る理由

範囲を欲張ると維持体制が詰まる



取得戦略の核心

まず1つを深く取り、需要に合わせ広げろ

● 認証支援のフリーランス案件

1

認証取得コンサル

体制構築・ギャップ分析・規程設計を担う

2

文書・記録の整備

規程・手順書の作成と運用記録の設計

3

内部監査の支援

監査の実施と指摘事項の是正対応

4

維持管理・更新

審査対応と継続的な運用改善

継続案件の宝庫だ。掴みに行け



● 案件の単価目安と資格の積み上げ

フリーランス単価の目安



一般・運用案件

全体 118 件は中央値 92.5 万円（50 ～ 180 万円）



上流・設計案件

要件定義など上流 29 件は中央値 115 万円



CISO 代行クラス

PMO ・ 責任者クラスは中央値 100 万円前後

資格の積み上げ順



土台資格

情報処理安全確保支援士・ CISSP



専門資格

CISA ・ ISMS 審査員補で監査力を加える

技術 × 管理が高単価の道



● よくある誤解：代替関係にない



ISMS で P マークは不要か？

取引先が P マーク指定なら別途必要



取得にかかる期間は？

数か月～1年・運用実績の積み上げが必要



誤解の核心

どちらが上位でもなく守る対象が違う



● まとめ | P マークと ISMS の違いを武器にする



P マークは個人情報・国内、ISMS は全資産・国際で守る対象がまるで違う



認証は業態と取引先の要請で選ぶ。焦って両方取ると運用に潰される



違いを語れる人材が認証支援・GRC 案件で継続的に稼げる

NEXT ACTION

まずは市場価値の無料相談・登録

[セキュリティプロ・フリーランス >](#)

[セキュリティプロ・テンショク >](#)

